西尾章治郎 次期総長予定者に聞く

次期総長予定者に決まった西尾章治郎 情報科学研究科教授（サイバーメディアセンター長）。平成27年8月26日から第18代総長に就任します。任期は平成33年8月25日までの6年間。就任前の西尾教授に聞きました。

抱負

「一人ひとりの真価を阪大の進化に」

大阪大学第18代総長予定者に選出されてから、伝統ある大阪大学の今後の舵取りを担うことになる責任の重さを改めて感じています。私の任期は、来年度から始まる第3期中期目標期間の6年間とほぼ重なります。ご承知のとおり国立大学を取り巻く状況は極めて厳しいものがありますが、次の第3期は日本の国立大学にとって歴史的な転換点になります。また、大阪大学にとりましても、その将来に向けて、構成員一人ひとりが持つ豊かな「真価、つまり真の価値」を大学のさらなる「進化(evolution)・発展」につなげて、社会の負託に応えていけるか否かが問われる重要な時期です。

そこで、「6年間で力強い礎を築く」、「一人ひとりの真価を阪大の進化に」を総長任期中のモットーにしたいと思います。そのモットーのもと、加速化するグローバル化の中で本学は、大阪大学憲章の基本理念に謳われている「改革の伝統」を尊重し、「継承」と「刷新」と「新機軸」とを組み合わせた「実効性ある改革」を遂行していく所存です。

その遂行にあたり、所信表明書に記載した次の5項目を基本方針といたします。

1. キャンパスのグローバル化の推進
2. 「教育の阪大」の特色を活かした人材育成
3. 「研究の阪大」のマルチ展開の促進
4. 構成員との協調による課題解決
5. 財政ビジョン策定のもとでの柔軟な財務運用

そして、改革を進めていく上で、総長のリーダーシップは大学構成員の合意形成があってこそ、力を発揮するものと考えています。

大阪大学の源流である懐徳堂の第四代学主、中井竹山先生は、「学校の衰へは、世の衰ふる基」という言葉を残されています。今まさに、この言葉を反芻するとともに、大阪大学の「いま」を預かっている私たちは、世のために本学を衰えさせることなく、「進化・発展」させ、世界屈指の研究型総合大学として次世代にバトンを渡す責務を負っています。総長就任のあかつきには、全身全霊の力を込めてその任を果たしていく所存です。

最近の学術政策活動

「学術研究は国力の源」

文部科学省においては、科学官時代から培ってきた人的ネットワークによって科学技術・学術政策に深く関わってきました。最近の特筆すべき活動としては、「学術の基本問題に関する特別委員会」の主査として、「国力の源」としての学術研究の重要性、それを支える基盤的経費と競争的経費のバランスの取れたデュアルサポートシステムの必要性、さらには人文学・社会科学の振興の重要性を強調し、特に現代的要請である挑戦性、総合性、融合性、国際性によって我が国の新たな強みを創出していくことを提言いたしました。

専門分野

「ビッグデータ時代を先導する研究」

最近特に、電子化された超大量のデータ（ビッグデータ）を社会経済活動、科学技術や学術振興、文化的活動、さらには日々の日常生活において有効利用するための情報技術が世界的に重要視されています。その中心を成す「データ工学」の研究を専門としてきました。1992年に工学部教授就任以降、指導してきました多くの学生・社会人のうち50名近くが博士の学位を取得したことを誇りとしています。

趣味

「小・中学生時代は スポーツ三昧の日々」

小・中学生時代は年間を通じてスポーツ三昧の日々を過ごし、豪雪地（岐阜県高山市国府町）で育ったこともあり、幼少の頃からスキーに親しみ、中学生のときに県大会においてスラロームで優勝したこともあります。郷里が北アルプスに近いこともあって登山も趣味で、槍・穂高連峰、立山・剣岳などにも登ってきました。また、絵画鑑賞も好きで、以前は絵画展にしばしば出かけ美術館巡りを楽しんでいました（最近はなかなか時間がありません）。特に印象派の絵画が好きで、セザンヌやゴッホと縁のある南仏の街々を訪ねたこともあります。

西尾 章治郎（にしお しょうじろう）

学歴・職歴
1951年生まれ。75年京都大学工学部卒業、80年同大学院工学研究科博士後期課程修了（工学博士）。京都大学工学部助手、カナダ・ウォータールー大学客員研究助教授、大阪大学基礎工学部助教授、情報処理教育センター助教授を経て、92年同工学部教授。その後、大阪大学サイバーメディアセンター長（初代）、同大学院情報科学研究科教授（現在に至る）、同研究科長、大阪大学総長補佐、2007年～11年同理事・副学長。現在、同サイバーメディアセンター長。

政府関係委員
文部科学省科学官、同科学技術・学術審議会委員、同文化審議会臨時委員、同大学設置・学校法人審議会専門委員、日本学術会議会員（情報学委員長）、内閣府総合科学技術会議専門委員、日本学術振興会産学協力総合研究連絡会議委員、科学技術振興機構研究主監（PD）、日本ユネスコ国内委員会委員をはじめ多くの委員を歴任。

受賞・表彰
紫綬褒章、文部科学大臣表彰、電子情報通信学会業績賞・功績賞、情報処理学会功績賞、日本データベース学会功労賞、立石賞功績賞、船井情報科学振興賞をはじめ多数の賞を受賞。IEEEをはじめ日本工学会、情報処理学会、電子情報通信学会のフェローの称号を授与される。